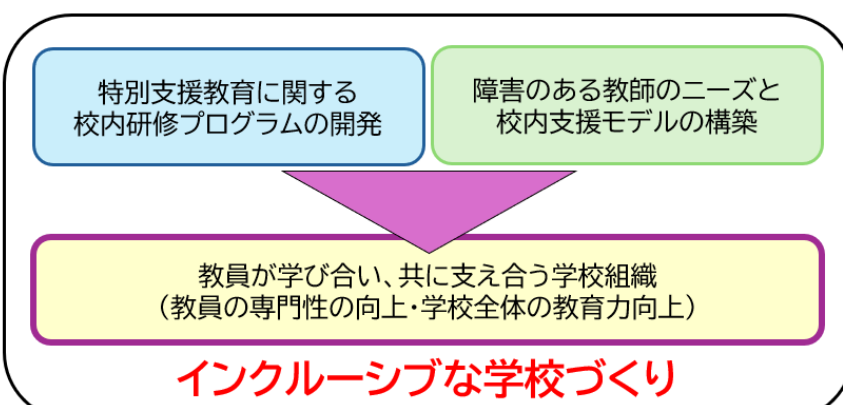


教育学・心理学	【代表的な研究テーマ】 ☐ 特別支援教育に関する校内研修プログラムの開発 ☐ 障害のある教師のニーズと校内支援モデルの構築
key word	
■ 特別支援教育 ■ 教員研修 ■ 教師教育 ■ 障害のある教師のキャリア形成 ■ ポジティブ行動支援	課題解決に役立つシーズの説明 特別支援教育の専門性向上、教員の人材育成、多様な教員が働きやすい学校づくりに貢献したいと考えています。「校内研修プログラム」や「障害のある教師への支援モデルの構築」に関する研究を通して、教員が学び合い、共に支え合う学校組織を育み、児童生徒はもちろん教員も含めたインクルーシブな学校づくりを目指しています。 1 特別支援教育に関する校内研修プログラムの開発 特別支援教育の充実には、教員一人ひとりの専門性向上と学校全体の組織的な取組が不可欠です。これまで、ICT の活用やグループワーク、事例検討等を取り入れた校内研修プログラムを開発し、教員が主体となって学び合える仕組みづくりに取り組んできました。教員が主体的に参加し、自律して研修を進め、実践に役立つ研修プログラムの開発に、引き続き取り組んでいます。 研究事例(中学校における特別支援教育に関する探究型研修) 公立中学校(1校)の全校教員を対象に生徒への支援の改善を目的として、教員が主体的に課題解決に取り組む「探究型研修」について検討しました。予備調査では、教員は視覚支援や質問しやすい環境づくりなどの工夫を行っている一方で、生徒の学習意欲の低さや支援の難しさに課題を感じていることが明らかになりました。そこで、生徒の困り感や特性を理解し、自己効力感を高める支援について教員同士で話し合うグループワークを研修プログラムに取り入れました。また、ICT を活用して意見を共有しやすい環境を整え、話し合いの内容を全体で共有できるよう工夫しました。その結果、生徒理解や効果的な支援について新たな気づきが得られ、教員の学びが深まりました。事後アンケートでは、研修の満足度や有用性が評価され、主体的に参加できたとの回答が得られました。また、教員同士の同僚性の向上にもつながることが示唆されました。 2 障害のある教師のニーズと校内支援モデルの構築 「障害のある教師」が、その能力を十分に発揮し、自分らしく生き生きと働き続けられる環境づくりを目指して、ニーズの把握や管理職・同僚による支援のあり方について研究を進めています。現在、障害のある先生方や、その管理職・同僚の先生方を対象に調査を行っています。本研究では「障害のある教師」が児童生徒や同僚、学校組織に与える影響と意義などについても検討します。それら研究の成果を広く発信することで、教員の障害者雇用の推進にも寄与したいと考えています。
	
山川 直孝 Naotaka Yamakawa	
教育学研究科 准教授	
【プロフィール】 ●専門分野 ・特別支援教育 ●略歴 1998 年 滋賀県立特別支援学校(養護学校)教諭 2014 年 滋賀県教育委員会事務局 指導主事 2021 年 滋賀大学大学院教育学研究科 准教授 2021 年 滋賀県総合教育センター 主任研究員 【主な社会的活動】 ・高等学校等特別支援教育体制整備事業専門家チーム(滋賀県教育委員会) ・高等学校等特別支援教育推進事業スーパーバイザー(滋賀県教育委員会) ・米原市特別支援教育支援委員会 委員 ・一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構 資格認定委員会 委員長	 特別支援教育に関する校内研修プログラムの開発 障害のある教師のニーズと校内支援モデルの構築 教員が学び合い、共に支え合う学校組織 (教員の専門性の向上・学校全体の教育力向上) インクルーシブな学校づくり
【著書】 特別支援学級の教師の新たな学びの姿 ポジティブ行動支援研修: 子どもも教師も伸びる! 自立活動の充実に向けて (2024, 黎明書房)	企業・自治体へのメッセージ ・学校や教育委員会を対象に特別支援教育に関する研修についての共同研究を行っています。 ・障害のある先生や管理職・同僚の先生方を対象に、障害のある先生のニーズや校内支援体制についての調査を行っております。 ・研究にご関心のある方はメール(yamakawa@edu.shiga-u.ac.jp)にてご連絡ください。